

ペット関連市場の調査を実施

2009年見込

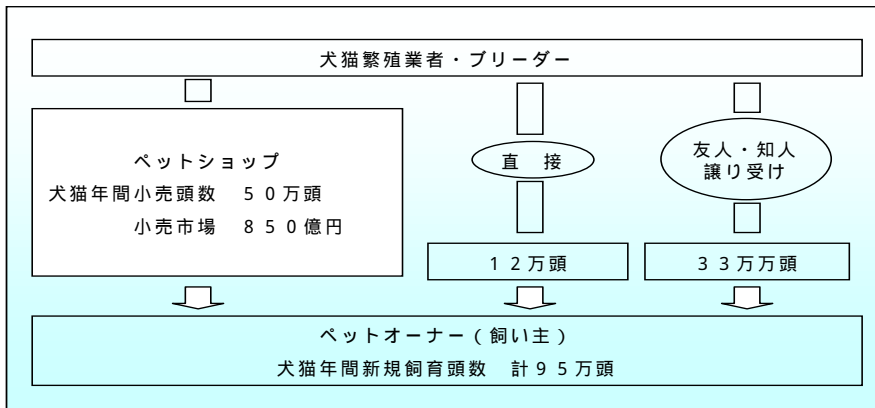
ペット関連市場はプラス成長を維持し前年比4.5%増の4,159億円

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は室内飼育、肥満化、高齢化、ペットの小型化など飼育トレンドの変化と、安心・安全性の問題と原材料の高騰、法改正、世界的な不況など揺れ動く社会情勢の中で、様々な商品展開が行なわれているペットフードやケア・生活用品の国内市場を調査した。その結果を報告書「2009年 ペット関連市場マーケティング総覧」にまとめた。

この報告書では、ペットフード10品目、ペットケア用品10品目、ペット生活用品9品目のペット関連市場と、注目ビジネスとしてペット保険市場の分析を行っている。また、今回新たにペット（生体）の流通とその構造を分析している。

<調査結果の概要>

1. ペットショップの犬猫（生体）市場（2008年）



ペットオーナー（飼い主）が1年間に新たに飼育を開始する犬猫頭数は約95万頭である。その内、ペットショップルートが50%以上を占め、その市場は850億円と見られる。その他はブリーダーからの直接購入、知人や保健所等からの譲受である。

2. ペット関連市場

カテゴリー	2008年	前年比	2009年見込	前年比
ペットフード 9品目	2,908億円	102.9%	3,039億円	104.5%
ペットケア用品 10品目	648億円	104.7%	684億円	105.6%
ペット生活用品 9品目	425億円	101.0%	436億円	102.6%
合計	3,981億円	102.9%	4,159億円	104.5%

プレミアムフードは、ペットフードのドッグ/キャットフードの内数

国民の消費意欲が全般的に低下している中、ペット関連市場は、プラス成長を続けている。08年は、ペットフード、ペットケア用品、ペット生活用品、それぞれの市場が拡大し、ペット関連市場は前年比2.9%増の3,981億円となった。

ペットフードはプレミアム化へ

08年は、ペットフード市場の中核をなすドッグフードとキャットフードの二大市場が合算で2,170億円と

なった。ドッグフードは犬の飼育頭数の頭打ちや小型犬ブーム等から成長が鈍化しているが、キャットフードは猫の飼育頭数が増えていることから好調である。ドッグフードとキャットフードともにプレミアムタイプが特に伸びており、今後も市場拡大に寄与すると予想される。犬猫用のスナックは、偽造表示問題で出荷停止となった企業があり市場が前年比3%減となったが、09年は回復する方向にある。観賞魚用フードは錦鯉用の停滞、小鳥・観賞鳥用フードでは生体の流通規制のため、共に苦戦している。一方、小動物用フードはウサギ用が好調で、また、プレミアムタイプが伸びを下支えしていることから、今後も拡大すると予想される。

ペットケア用品は室内飼育の増加を背景に関連商品が成長

室内飼育の増加で猫砂、トイレ用シート、デンタルケア用品、イヤークリーナー、しつけ剤、ウェットティッシュ、ボディタオル、ペット用消臭剤・脱臭剤が伸びている。猫砂とトイレ用シートは猫の飼育頭数の増加も拡大要因の一つである。また、デンタルケア用品やイヤークリーナーは室内飼育で飼い主とペットとの距離が近づいたことで口や耳の周りを気にする飼い主が増え需要が拡大している。

一方、防虫剤/殺虫剤、シャンプー類は、動物病院ルートの拡大が市場を押し上げている。

ペット生活用品も室内飼育に関連した商品が市場拡大

08年のペット生活用品の市場は、前年比1.0%増の425億円となった。市場の27%を占める水槽・周辺器具が成熟期に差し掛かっているものの、前年比2.7%増となった。

ケア用品と同様に室内飼育の増加に伴って室内で使用されるベッドやマット、ヒーター、玩具が高成長している。一方、屋外用のハウスは縮小に歯止めがかからない状況である。首輪・胴輪・引紐についても08年の市場は前年比1.5%減である。

3. 注目ビジネス

ペット保険

	2008年	前年比	2009年見込	前年比
提携代理店数	3,500店	27.1%	4,550店	130.0%
加入件数	391,500件	86.7%	515,000件	131.5%

ペットが病気や怪我をして動物病院などで医療行為を受けた際、請求された医療費の負担額を一部補償するサービスを対象としている。

06年4月に改正保険業法が施行され、共済制度の廃止に伴い従来の共済会社(無認可共済)については、08年3月末までに保険会社となるか、少額短期保険会社となるか、又は廃業・合併をするかの選択を迫られた。これによりこれまで窓口となっていた動物病院の扱いがなくなり、提携代理店数と加入件数は大幅に減少している。

少額短期保険会社は、08年に日本アニマル倶楽部、アイペット、ペットメディカルサポート、もっとぎゅっと少額短期保険、ペット&ファミリー少額短期保険、FPCの計6社でのスタートとなった。09年2月にはペットベスト少額短期保険が登録を完了しており、ペット保険の販売に向けて準備している。

共済制度の廃止で加入件数は大幅に縮小したが、法改正によって保険に対する信頼性は高まっている。また、雑誌などでペット保険の特集が多くなっていることから注目度は高まっている。更にペット医療の高度化により医療費の高騰を避けられない状況もあるため、今後は加入件数の回復が期待される。

医療費の50%や80%など

<注目市場>

1) プレミアムフード(ペットフード)

2008年 562億円(前年比107.5%) 2009年見込 589億円(前年比104.8%)

ライフスタイルやペットが抱える症状や悩み等に対応したプレミアムタイプ(高付加価値で高価格帯)のドッグフードとキャットフードを対象としている。ペットの小型化や高齢化から給餌量が減少していることから、メーカー各社はプレミアムフードへ注力している。

08年の市場は前年比7.5%増の562億円となった。プレミアムフードの付加価値が飼い主に受け入れられ需要を伸ばしている。日清ペットフードの「ジェーピースタイル」や花王の「ヘルスラボ」などの通販チャネルに特化していたブランドが、専門店やスーパーマーケットなどの店頭ルートへ販路を拡げていることから市場拡大が期待される。

2) トイレ/トイレ用シート(ペットケア用品)

2008年 246億円(前年比107.4%) 2009年見込 261億円(前年比106.1%)

室内で使用される犬猫用トイレとトイレ用シートを対象としている。トイレ用シートは消臭力が重要なポイントで、各社は尿を素早く吸収したり、炭などを配合して消臭力を高めた商品の投入を行なっている。

08年の市場は、トイレが横ばいであったのに対し、市場の90%以上を占めるトイレ用シートが伸びたことから前年比7.4%増の246億円となった。室内飼育の増加と共にペット用トイレやトイレ用シートの重要性は高まっている。一方で08年冬より景気の悪化により消費が低迷しており、耐久品であるトイレは買い控えが、消耗品であるシートは低価格品へと需要の移行が見受けられる。

3) 玩具(ペット生活用品)

2008年 33億円(前年比103.1%) 2009年見込 35億円(前年比106.1%)

食べられる商品であってもメーカーが玩具と位置づけている商品は対象としている。室内飼育の増加に伴い、ペットの口腔衛生に対する飼い主の意識が高まっており、デンタル系玩具の需要が伸びている。また、一般系玩具についても、ペットのコンパニオンアニマル化(人間の伴侶としてのペット)によりペットと人間との距離が近づき、コミュニケーションツールとして伸びている。

08年の市場は拡大を維持し、前年比3.1%増の33億円となった。玩具は定番化している商品もあるが、一般的には商品サイクルは短い。メーカー各社は毎年新製品を投入することで需要を喚起している。特に09年は、猫の飼育頭数が増えていることから、猫用に傾注しており、デザインや素材、機能面による差別化を図っている。

玩具の需要は拡大しているものの、07年に米国で発生した中国製玩具の問題などを契機に、飼い主に安全、安心への要求が高まっている。特にペットが口に含んで遊ぶ玩具に対しては従来以上に素材や原材料の安全性や品質の確保が求められている。

以上

<調査対象>

カテゴリー	品目
ペットフード	ドッグフード、キャットフード、プレミアムフード、スナック、観賞魚用フード、小鳥・観賞鳥用フード、小動物用フード、サプリメント、ミルク、特別療法食
ペットケア用品	猫砂、トイレ/トイレ用シート、オムツ、ペット用トイレタリー、しつけ剤、消臭剤/脱臭剤、防虫剤/殺虫剤、シャンプー類、イヤークリーナー、デンタルケア用品
ペット生活用品	首輪/胴輪/引紐、ハウス/ベッド/マット/ヒーター、ケージ/サークル・ゲート、キャリー、ブラシ/クシ、食器/給水器、玩具、衣類、水槽/周辺器具
注目ビジネス	ペット保険

<調査方法> 富士経済専門調査員による参入企業、業界関連企業及び団体等へのヒアリング調査を中心に、社内データベース併用

<調査期間> 2008年12月~2009年2月

資料タイトル:「2009年 ペット関連市場マーケティング総覧」

体 裁 : A4判 254頁

価 格 : 120,000円(税込み126,000円)

CD-ROMセット価格 : 130,000円(税込み136,500円)

調査・編集 : 富士経済 大阪マーケティング本部 第三事業部

TEL:06-6228-2020 FAX:06-6228-2030

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>